

アウト・オブ・民藝

「民」から芋づる編 MINGEI のB面！
会場・生活工房ギャラリー（三軒茶屋駅直結・キャロットタワー3階）

みんげい「民藝」(名) ●民衆藝術。●民俗藝術。

みんしゅう「民衆」(名) ●世間一般の人民。多くの民。●プロレタリア。大衆。——かく「民衆化」(名) 民衆に同化する。民衆の物事になること。

「げいじゅつ」民衆藝術「(名) ●一般民衆の作り出した藝術品。名のある藝術家の作にかからぬ作品。民藝。●一部の特権有閑階級に独占されてゐる藝術を、一般民衆のものたらしめんとして生まれた藝術。——こらく「民衆娛樂」(名) 廣く一般の人々に理解し享樂せられる娛樂。——てき「民衆的」(名) ●民衆に關係あること。

民衆藝術

みんかん「民間」(名) 人民の社會。普通人の社會。坊間。(官府の對)

みんかん「でんしゅう」民間傳承「(名) 古來上流社會にあらざる庶民間に、歴史の記述の外にあって、傳來した種種の習俗・口碑・心理等をいふ。

大震災の直後に渡歐の旅立ちをした私の見聞に關する限りでは、

民俗學といふ言葉は未だなくて

郷土研究といふ言葉が一般的に

用ひられ、また、民藝と言はないで

農民美術と言ふのが普通であつた。

森「多里」民俗と藝術」序文（1942）

郷土研究

民俗藝術

みんぞく「民俗」(名) 人民の風俗。民間のならはし。——かく「民俗學」(名) (Folklore) 民間に傳はつた風俗・習慣・傳説・心意・信仰等を科學的に研究する學問。民間傳承論。——げいじゅつ「民俗藝術」(名) 民間に傳はり、民間の手になる即ち民俗學的の藝術。郷土藝術も同じ意に用ひられる。

郷土藝術

のうみん「農民」(名) 農業に従事する民。百姓。

「げいじゅつ」農民藝術「(名) ●文」農民文學。●「美」農民美術。——そう「農民層」(名) 【社】農民の階級を形成する層。大農・中農・小農・貧農・農業労働者等。——びじゅつ「農民美術」(名) 【美】農民の製作した工藝品。木・竹・革等の細工物及び陶磁器類で、素朴で郷土的の色彩を特徴とする。

農民美術

みんげい「民芸」庶民の生活の中から生まれた、郷土的な工芸。実用性と素朴な美とが愛好される。民衆的工芸。大正末期、柳宗悦の造語。——うんどう「民芸運動」日用の雑器に美的価値を見出し活用しようとする運動。大正末期から柳宗悦・河井寛次郎・浜田庄司らが提唱・推進した。——ひん「民芸品」庶民の生活から生まれた、地方色豊かな手工芸品。

「民芸」(名) 庶民の生活の中から生まれた、郷土的な工芸。実用性と素朴な美とが愛好される。民衆的工芸。大正末期、柳宗悦の造語。——うんどう「民芸運動」日用の雑器に美的価値を見出し活用しようとする運動。大正末期から柳宗悦・河井寛次郎・浜田庄司らが提唱・推進した。——ひん「民芸品」庶民の生活から生まれた、地方色豊かな手工芸品。

「民芸」(名) 庶民の生活の中から生まれた、郷土的な工芸。実用性と素朴な美とが愛好される。民衆的工芸。大正末期、柳宗悦の造語。——うんどう「民芸運動」日用の雑器に美的価値を見出し活用しようとする運動。大正末期から柳宗悦・河井寛次郎・浜田庄司らが提唱・推進した。——ひん「民芸品」庶民の生活から生まれた、地方色豊かな手工芸品。

みんぞく「民族」(名) 人種を地理學的・文化的即ち習俗言語等によつて區分したもの。——うんどう「民族運動」(名) 【政】國を異にして散在する同一民族が、互に合體して一大民族國家を建設せんとする運動。また他民族の國家に壓迫されてゐる少數民族が、その壓迫を脱して獨立せんとする運動。——かく「民族學」(名) 【社】(Ethnology) 一般未開の原始的の生活をしてゐる民族の文化の全般を、科學的に研究しようとする學問。一國內の舊習遺風を研究する民俗學(Folklore)と似てゐるが、對象を異にしてゐる。土俗學。

民族學

みんよう「民謡」(名) 民族の歌謡。民衆の間に生じ、自然に洗煉されてその生活・感情を素朴に反映した歌謡。これを田植歌・草取歌・米搗歌・桑摘歌・茶摘歌・馬子歌・舟歌等の如く、ある種の労働に統一リズムを與へる労働歌、新婦式歌・新築歌・祭禮歌・大漁節の如き祝賀歌及び舞踊に附隨する踊歌に分け、これに手鞠歌・子守歌等を合すればその数は幾百千に達する。現今は、廣く地方色を帯びた新作歌謡をも含めていふ。

民謡

へいみん「平民」(名) ●官位なき普通の人民。

平民工藝

「げてもの」(下手物)「(名) 【美】みんしゅうげいじゅつ(民衆藝術)」。みんげい(民藝)。

上記「民藝」げてもの」という語を最初にとりあげた『辞苑』(1930)より 民藝＝民衆の工藝とは書かれていない。

軸原ヨウスケと中村裕太

2024.4.29 MON 8.25 SUN 9:00-21:00 入場無料 月曜休み(祝・休日は除く)

主催:公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
後援:世田谷区、世田谷区教育委員会

世田谷文化生活情報センター

生活工房
Lifestyle Design Center

アウト・オブ・民藝

1924年4月(ちょうど百年前)、柳宗悦は関東大震災を機に京都へ引越し、河井寛次郎や濱田庄司と仲良しになっていました。一緒になって朝市で丹波の古布を漁ったり、民間信仰に根ざした木喰仏の調査をしていました。そして、1925年12月、紀州の木喰調査の道中で「民藝(民衆的工藝)」という言葉を生み出します。その当時、主に農村や漁村で暮らす人々に向けられた「民」という文字は、民藝に限らず、一般に流布していた民衆藝術、民俗藝術、民謡をはじめ、ウィリアム・モリスの『民衆の芸術』(原題:The Art of the People)、柳田國男の民俗学、富本憲吉の民間芸術、山本鼎の農民美術運動、今和次郎の平民工芸などさまざまな場面に登場してきます。そのため、それらの言説のなかで民芸品、民具、郷土玩具、農民美術などに向けられる眼差しも複雑に絡み合っています。いったい彼らは「民」に何を見出していたのでしょうか。

本展では、『アウト・オブ・民藝*』の著者であるデザイナーの軸原ヨウスケと美術家の中村裕太が、柳らが夢中になって民芸品を蒐集していた黎明期の民藝運動と、今日のライフスタイルとしての「MINGEI」との食い合わせを「民」という文字からひも解いていきます。会場では、主に1910年代から40年代の新聞や雑誌などの出版物をはじめ、彼らの日記や書簡などを時間軸に沿わせた「アウト・オブ・民藝の芋蔓年表」を設けます。こうした「民」にまつわる文献や物品を芋蔓^{いもづつみ}っていくことで、「MINGEI」とはひと味違ったB面^{いもづつみ}を掘り起こしていきます。

*アウト・オブ・民藝は、軸原ヨウスケと中村裕太が行う「民藝」の周辺をめぐるリサーチ活動です。リサーチの対象となるのは、民藝運動発足当時に起きていたさまざまな工芸運動、それらにまつわる人物、出版などとのネットワークです。

EVENTS

アウト・オブ・民藝のなかよしトーク 4.28.sun

一般公開に先立ち、本展を手がけた軸原ヨウスケと中村裕太が「民」という文字からお互いにどのような文献を芋蔓ってきたのかを仲良く語り合います。(*プレス取材が入ります)

日時:4/28(日) 15:00-16:30 会場:生活工房ギャラリー
講師:軸原ヨウスケと中村裕太
参加費:無料 定員:先着40名 申込:不要、直接会場へ

アウト・オブ・民藝の芋蔓まつり 6.15.sat

「民藝の100年」展(東京国立近代美術館、2021年)を企画された花井久穂さんとのトーク、田口史人さんによるレコードで聴く「民(衆)」とは? 京都の焙煎家オオヤミノルさんのコーヒーを飲みながら、「アウト・オブ・民藝」が掘り起こした芋々を味わいます。

日時:6/15(土) 13:00-18:00
会場:生活工房ギャラリー及びワークショップルームAB
講師:花井久穂(東京国立近代美術館主任研究員)、
田口史人(リクロ舎)、オオヤミノル(オオヤコーヒ焙煎所)、
軸原ヨウスケと中村裕太
参加費:500円(入退場自由/ドリンク代別) 定員:先着70名
申込方法:4月25日10時よりWebにて
13:00- なかよしトーク(軸原と中村)
14:00- コーヒータイム
14:30- レコードトーク「民(衆)とは?」(田口史人、オオヤミノル、軸原と中村)
16:00- コーヒータイム
16:30- スライドトーク「民藝の100年」(花井久穂)
17:00- アフタートーク(花井久穂、オオヤミノル、軸原と中村)

アウト・オブ・民藝VS新しい骨董のブリッストーク 8.25.sun

9月3日から生活工房で展覧会を開催する山下陽光さん(リメイクブランド「途中でやめる」主宰)、「新しい骨董」のグループメイト下道基行さん(オンライン参加)をお招きし、アウト・オブ・民藝から新しい骨董へと芋蔓ります。

日時:8/25(日) 14:00-16:00
会場:生活工房ギャラリー及びセミナールームAB
講師:新しい骨董(下道基行、山下陽光)、アウト・オブ・民藝(軸原と中村)
参加費:500円 定員:先着100名 申込:7月25日10時よりWebにて

RELATED EXHIBITIONS

世田谷美術館「民藝 MINGEIー美は暮らしのなかにある」
4.24.wed-6.30.sun

目黒区美術館「生誕130年 武井武雄 幻想の世界へようこそ」
7.6.sat-8.25.sun

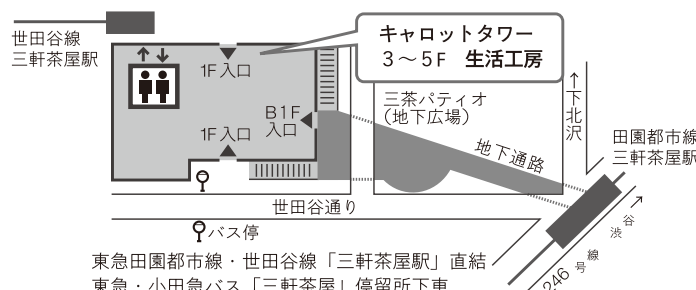
トークイベント「武井武雄のネットワーク」8.24.sat

武井武雄の人的なネットワークを立体的な相關図に仕立てた軸原と中村。アウト・オブ・民藝から見たそのネットワークの見どころを語り合っていくなかよしトーク。

日時:8/24(土) 15:00-16:30 会場:目黒区美術館
*詳細は各館のウェブサイトをご覧ください。



①藤井達吉『家庭で出来る手藝品製作法全集』主婦の友社、1927年 ②『みづゑ』各国の農民美術特集 春鳥会、1920年 ③『月刊民藝』第二巻第四号 日本民藝協会、1940年 ④『子爵里庫叢書参編 ニュウギニア其附近島嶼の土俗品』吾八、1939年 ⑤『工藝美術を語る』アトリエ社、1930年 ⑥今和次郎『民俗と建築 平民工芸論』磯部甲陽堂、1927年



〒154-0004
東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
TEL 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net www.setagaya-ldc.net

2024.4.29 MON 8.25 SUN 9:00-21:00

入場無料 月曜休み(祝・休日は除く)
会場:生活工房ギャラリー
(三軒茶屋駅直結・キャロットタワー3階)

主催:公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
企画制作:軸原ヨウスケと中村裕太
後援:世田谷区、世田谷区教育委員会

世田谷文化・生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center